にこにこ　きらきら　ゆめにむかって

おともがわ

学校報　№24
保護者版
平成 30 年8月 31 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

全国学力・学習状況調査から見えること（Ⅱ）

前号で取り上げた各教科における本校児童の「弱点」には，共通点があるように思います。それは，「意味や自分の考えを，示された条件に合わせて書く」ということです。この傾向は，本校に限ったことではなく，どこの学校でも見られることです。このことについては，この調査が行われた日に出した学校報に少し詳しく書きました。（学校報№３）

ここに興味深い資料があります。広島大学大学院教授　難波博孝 氏が，2020 年から始まる大学入学共通テスト（以下，共通テスト）のプレテスト問題を分析したものです。ご存知の通り，2020 年から，今のセンター試験に代わって行われる共通テストには，マーク式の他に記述式の問題も加わることになりました。難波氏によると，それらの問題（マーク式と記述式の両方）を分析した結果「大学入試で求めるもの」は，次の６点であるということです。

1　複数の種類の文章を読ませること
2　複数の文章を組み合わせて考えさせること
3　大量の情報を処理させること
4　最大で 200 字程度の文章を，20 分程度の短時間で書かせること
5　多くの条件を踏まえて設問に答えさせたり文章を書かせたりすること
6　誰かの立場で設問に答えさせたり文章を書かせたりすること

２年後には，このような大学入試が始まり，それが実施されるとおそらく 20 年以上は続くだろう（センター試験は 30 年間実施された）ということです。実はこの方向性は，文科省がずっと追い求めてきたことで，今まで 10 年以上行われてきた全国学力・学習状況調査のＢ問題と，共通テストの傾向はそっくりだというのです。つまり，文科省は 10 年かけて，共通テストの基盤をつくってきたといえる，と難波氏は書いています。

各教科に共通している本校の弱点である「意味や自分の考えを，示された条件に合わせて書く」というのは，正に上記の「５」にあたります。共通テストのプレテストでは，資料を読み，条件に合わせて文章を書く問題の正答率が 0.7%，つまり 1000 人に 7 人しか正解しなかったそうです。多くの条件をクリアし，誰かの立場になって書くということは，これまでの小論文でも行われてきたのですが，このような力は受験期に少し訓練したくらいではなかなかつきません。一方で，このような小論文は非常に評定がしやすい（合否が出しやすい）とも言われています。これからは，益々このような出題が増えるだろうと思われます。なぜなら，全ての条件をクリアし，誰かの立場で書くということが，今の子どもたちに共通の弱点でもあるからです。

全ての子どもが共通テストを受けるわけではないにしても，やがては高校入試にもこの流れが影響してくるのは必至です。ですから，小学校でも上記の６つのことを意識して日常の授業に取り入れながら，このような力を少しずつ付けていくことが大切であると思います。

※次回は，質問紙（児童アンケート）の結果について報告いたします。

9 月 2 日は地区民運動会。よろしくお願いします。（どうか晴れますように！）